

モミの木の家で
笑顔と安らぎのある暮らし



リビングの壁にはぐるりともみの木の腰壁を配しました。見た目にも木の温もりが一層感じられます。もみの木とスピンオフの壁のおかげで、リビングで飼っているペットのウサギの匂いも気になりません。

次世代の住まい
CASE 31
宮城県利府町
Yさんの家
取材日/2012年9月



もみの木の床の色合いは、よく歩くところ、日の当たるところから、いい感じに変わっていていますとYさん。

石巻市(旧雄勝町)のYさんの家は、昨年の東日本大震災で津波の被害に遭いました。長年暮らした家は、暮らしやすさを考えてリフォームをしたばかりでした。仙台市内の娘さんのアパートに避難しながら、これからのことをいろいろ考えたご夫妻。町の復興計画が進まないこともあり、新しく家を建てることを決意したのでそうです。

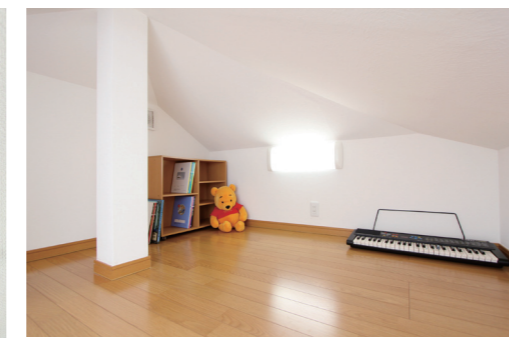
利府の展示場を訪れ、たまたま最初に入ったのがアヴィエスホーム。環境問題や健康に関心を持っていた奥さまは、もみの木の感触や香り、消臭効果などにとっても共感してくださいました。ご主人はスタッフから利府にいい土地があるという話を聞いて、その日のうちに現地へ。1気に入ってすぐ契約を決めた。トントン拍子だったなと笑顔です。出かける前まで「いつ、どこに、どんな家をと」という具体的なことは何も考えていなかったそうですから、出合いの不思議な縁を感じます。仕事で留守がちなお主人にかわって住まいづくりをすすめた奥さま。「無駄のない設計で収納がたっぷりあることが便利。アヴィエスさんを信頼してお任せして良かった」とうれいお言葉です。



担当より一言
営業 佐々木

東日本大震災、忘れられないお家の日、Y様の住み慣れたお家も被害に遭われました。地元を離れ、仙台での生活の中、展示場にいられた時は土地探しから始まり、来店当日に土地を案内させて頂き、後日、ご主人から電話が入り、先日見た土地で話を進めたいとの事でした。ご主人が船のお仕事の為、ほとんどいらつしやらない中での打ち合わせとなりましたが、奥様の協力もあり無事完成、そして、お引き渡しを迎える事が出来ました。いつも笑顔がたえないご家族。とても大変な思いをしていらっしゃるのに、私の方が元気を頂きました。Y様と私をつないでくれたもみの木に感謝です。ちよくちよくお邪魔してありますが、いつも笑顔で迎えてくださりありがとうございます。どうぞこれからも宜しくお願い致します。

今年3月に完成、お子さん達やお孫さん、伯母さまと一緒に暮らすことになり、にぎやかな毎日です。「この家はほのりり少ないね」と伯母さま。実は塗壁のスピンオフや自然素材のもみの木は、静電気が発生しづらいので、塵やほのりが舞いにくいんです。



2Fの娘さんとお孫さんの部屋からは、収納式の階段梯子を降ろして小屋根裏部屋に上がることができます。季節ものを収納するのに便利な屋根裏のスペースですが、天井や壁をスピンオフにしたおかげで、空調を付けなくても夏は涼しく冬は暖かな、居心地良く過ごせる空間に。今はお孫さんの一番の遊び場所です。



1Fのトイレは男女別にしたいという奥さまのご希望で階段下のスペースをやりくりして設計。壁もサーモンピンクにしたら、ちょっと自慢したくなるようなおしゃれな空間になりました。もみの木のカンナくすを消臭剤代わりに使っているのもアイデア。

家族の人数が多いご家庭では、すぐ雑然としてしまう玄関。シューズクロークなど収納スペースのある家族用玄関を作ることで来客があってもすっきりと迎えられる。



リビングを見渡せる明るいオープンキッチン。娘さんやお孫さん、伯母さまと4人でにぎやかに料理をすることもあるとか。



CASE31:宮城県利府町 Yさんのお宅

家族構成:7名でお住まい
延べ床面積:約37坪 部屋:4LDK
こだわり設備:もみの木の床 スピンオフ壁 DGHクッキングヒーター 太陽光発電



IH調理器の電磁波が気になっていたという奥さま。遠赤の調理器に関心があり、中でもドイツ製がいいと思っていたそう。アヴィエスホームの考え方とぴったり一致しました。



ベッドルームは、ウォークインクローゼットを広く取ったおかげですっきりと片付きます。



自然の力を上手に使いたいと取り入れた太陽光発電システム。

